

年次報告2024

公益財団法人 国際開発救援財団



FIDR

FOUNDATION FOR INTERNATIONAL DEVELOPMENT/RELIEF

心をあわせ、未来をひらく

ご挨拶



理事長 飯島 延浩

法人賛助会員、個人賛助会員をはじめ、FIDRをご支援くださる皆様に、日頃よりのご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。さて、ここに2024年度の年次報告をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当年度もウクライナやパレスチナ・ガザ地区での紛争には歯止めがかからず、世界の安定からは距離が遠のいたままです。FIDRが事業活動を展開するアジア地域においては、台湾花蓮地震やベトナムでの台風来襲など多発する自然災害により、多くの方々が被災し不安定な生活を余儀なくされました。2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地域も、未だ復旧の途にあります。被災された方々が元の暮らしを取り戻すには長期を要することから、FIDRも力の及ぶ限り、緊急的な支援に留まらず、被災地域の方々に寄り添った復旧支援に取り組んでおります。

一方で、カンボジア、ベトナム、ネパールにおいては、厳しい環境に残され続けている人々への地道な支援も継続いたしております。当年度はカンボジアとベトナムの事業地に、法人賛助会員9社17名の社員の皆様をお迎えし、これまでのご支援の成果をご視察いただきました。現地の方々が自主的かつ自立的に活動している様子や、FIDR職員の熱意に対して望外のご評価をいただくことができました。

このようなFIDRの地道な取り組みの大きな障害となっておりますのが、世界的なインフレや円安でございます。事業活動の縮小を何とか避けたいと願い、2月に法人賛助会員の皆様に会費の増口をお願い申し上げましたところ、多くの皆様よりご賛同を賜ることができましたことに深く感謝申し上げます。

FIDRは、支援者の皆様からのご厚志を元に、今後とも東南アジアを主眼とした開発途上国援助を中心としつつ、ワールド・ビジョン・ジャパンとの緊密な連携のもと、一つひとつの開発途上国援助のあるべき姿を追求し、また、新たな事業の種蒔きも積極的に行い、新しい価値の創造を目指してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

目次

ご挨拶	2	緊急援助	9
2024 年度の FIDR	3	広報啓発	10
国際協力援助		会計報告	11
カンボジア	4	みなさまとともに	12
ベトナム	6	FIDR について	14
ネパール	8		
共催事業	9		

表紙：ネパール事業地の学校は山間部のわずかな土地に建てられており、子どもたちは、校庭での活動中や通学途中で崖から転落する危険にさらされていました。そこでFIDRは、子どもたちの安全のためフェンスの設置を支援しました。表紙の写真は、そのフェンス沿いに山を登り、これから帰路につく子どもたちの姿を写したものです。

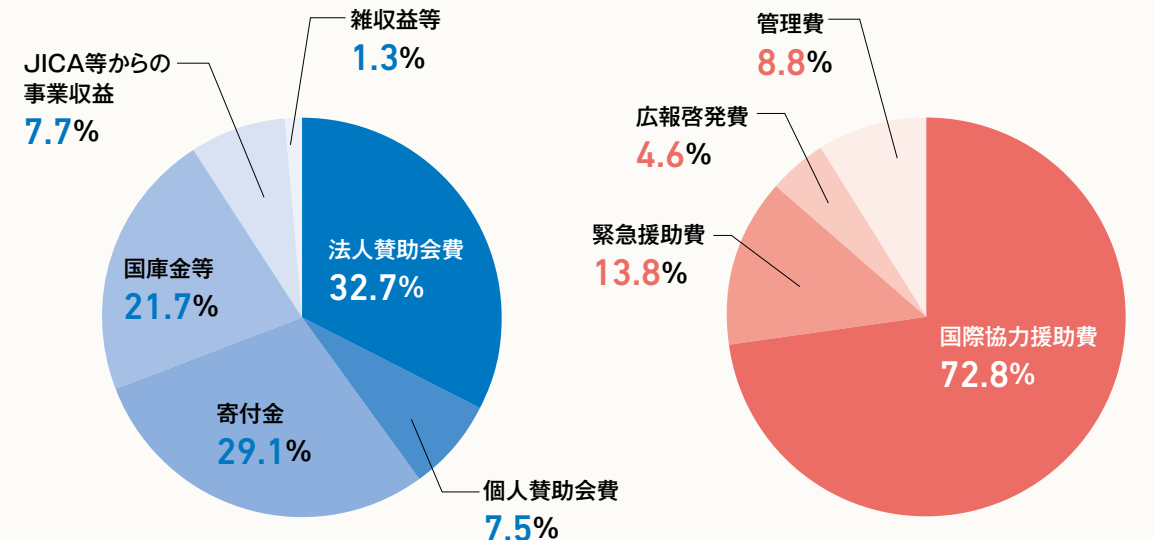
2024 年度のFIDR



FIDRのプロジェクトは「持続可能な開発目標＝SDGs」のうち11のゴールに貢献しており、1、5、10、17のゴールはすべてのプロジェクトで共通して取り組んでいます。

315 法人と **2,481** 名の個人の支援者の皆様
※2025年3月末時点

お預かりした資金 **3億5,881万円** 資金の使い方 **3億5,657万円**



※詳しい会計報告は P11 をご覧下さい

カンボジア



小学校の給食でふりかけを試食してもらいました

コンポンレーン郡農村開発

自らの力で地域の未来をつくる

期 間 2023年4月～2028年3月
(予定)

事業地 コンポンチュナン州
コンポンレーン郡3地区

対 象 住民約16,000人
(約4,000世帯)

背 景 目的 コンポンチュナン州コンポンレーン郡は、州の中心部へ行くための川に橋が無いために往来が制限され、雨季には農地が水没する地域も多く、十分な生計手段もないため、住民が困窮した生活から抜け出すことが難しい地域です。安定的な収入を確立し、衛生環境や教育事情を改善することで、住民が安心して生活できるようにします。

▶覚書に基づく活動が開始

地元行政や関係者と協議を重ね、プロジェクト実施に必要な行政との覚書を締結し、4か年の活動が正式に動き出しました。意欲的な参加者や協力的なカウンターパートが次々に現れており、課題解決に向けた取り組みが着実に進んでいます。

▶ふりかけを通じた栄養改善と収入向上

2023年度から取り組んでいる、地元の川で獲れた魚を主原料とするふりかけの生産・普及が大きく前進しました。生産面では、各村で住民主体の調理教室を実施してレシピの普及や試食を行うとともに、販売面では、地元の飲食店にふりかけを紹介し販路を開拓しました。また、3月には、小エビやモリンガなど地元ならではの素材を活かした生産者のオリジナルレシピによる「ふりかけコンペティション」を開催し、さらにカンボジアの国王様や首相に紹介する機会も得て、新たな特産品として州内外から関心を集めています。

▶生活課題の改善

栄養、保健・衛生、農業などに関する住民の課題を改善するための研修やイベント、リーダーシップ研修を開催しました。いずれも従来この地域で行われたことがほとんどない活動であったため、住民は熱心に参加していました。



協働するニッシントーア・岩尾株社員の方々が見守る中で、ふりかけの調理教室を開催



衛生環境改善を目的に行ったゴミ拾いには、子どもから大人まで多くの人たちが参加

現地からの声



サムロンセン地区のふりかけグループ

初めてふりかけの話を聞いた時は、「さまざまな素材を組み合わせるのは難しそう」と感じましたが、チームで協力し試行錯誤を重ねた結果、美味しく体に良いふりかけを開発することができました。地元の魚や野菜を使ったふりかけは、栄養への関心を高めるだけでなく、地域の産業や経済の活性化にもつながると考えています。「自分たちの手で地域をより良くしたい」という思いが、活動の原動力です。

カンボジア栄養教育普及

食と栄養で、健康を子どもたちに

期 間 2017年4月～2026年3月
(予定)

事業地 プノンベンおよび
コンボンチャム州

対 象 教育省職員対象校の教員
および生徒とその家族

背 景 目的 国民の栄養状態が他国に比べて顕著に劣るカンボジアでは、全国の小学校・中学校・高校で正式な教科となる保健科目の中で栄養分野を重視していますが、カリキュラム指導や教科書の執筆、教員の知識強化が課題となっています。食生活指針*を取り入れた体系的な栄養教育が教育省主導のもと全国レベルで実施されるよう、その基盤を作ります。

*食生活指針望ましい食生活を送るためのメッセージ。日本では厚生労働省が文部科学省や農林水産省と連携して策定し、数年ごとに改訂。カンボジアではFIDRと保健省が策定。

▶保健授業の開始に向けた準備

栄養単元を含む新しい保健教科書のカラー印刷と配布を段階的に行いました。前年度に続き、教員の指導にあたる学校保健局のトレーナーの知識と技能の定着を目指して研修を実施するとともに、復習用の動画を作成しました。

▶栄養教育のモデル校構築を継続

全国に栄養教育を普及するためのモデル校となるコンボンチャム州の4校で、新しい教科書を使用した授業を進めています。教員どうして模擬授業を行い、よりよい授業ができるように工夫を重ねています。保健室では生徒たちの身体測定を実施、生徒グループはゴミ分別の啓発活動やトイレや手洗い場の定期的な清掃の年間計画を立て、分担して行っています。この取り組みを他の地域の学校にも広げるため視察も受け入れており、地域を超えた学校間の交流が実現しています。

▶「食生活指針」の普及

前年度に続き、他の援助団体、教員養成学校の教官や職員、現職の教員らに対して、食生活指針および栄養がテーマの研修を実施しました。



他校から視察に来た教員に学校での取り組みを案内するモデル校の先生

カンボジア小児外科支援

身近に安心して頼れる医療を

期 間 1996年10月～2028年3月
(予定)

事業地 クラチェ州およびプノンベン

対 象 クラチェ州の病院・診療所の医療従事者約400人、年間約1,600人のクラチェ州病院小児・成人の入院患者およびその家族

背 景 目的 5歳未満児の死亡率が他のアジア諸国に比べて高いカンボジアでは、小児外科医療の立ち遅れ、特に地方における医療格差が大きな課題です。北東部に位置するクラチェ州および近隣地域の子供が迅速かつ適切な診断、および外科治療を受けられるように、州病院を拠点とした小児外科医療体制を整えます。

※当プロジェクトは、外務省の令和5年度及び令和6年度日本NGO連携無償資金協力を受け実施

▶州内・他州医療機関の連携強化

クラチェ州保健局と協力し、州内の郡病院および保健センター職員を対象とした研修を実施しました。また、タイへの視察研修に州内の保健局および保健センターの職員5名を派遣しました。さらに、ラタナキリ州病院からの視察をクラチェ州病院で受け入れました。

▶地域住民への啓発活動

保健ボランティアが地域住民を対象に、小児外科疾患や病院の診療について理解を高める活動を6村で実施しました。また、ラジオ番組を2回放送し、クラチェ州病院や保健センターの受診促進、病気の初期症状を解説しました。

▶州病院および郡病院の技能向上

クラチェ州病院の麻酔看護師2名が小児麻酔に関する研修に参加、また、日本人専門家による外科診療研修を州病院・郡病院外科医師を対象に実施しました。

▶州病院の外科強化のための機材配備

外科疾患の正確な診断および手術前後の検査を迅速に実施するため、超音波診断装置を配備しました。



小児外科疾患の診断ができるよう、州保健局講師による説明を受ける郡病院と保健センターの職員



愛知県東栄町で草木染体験をした視察団一行

ベトナムでは、2025年7月1日に行政区とその名称が改変されました。本誌の報告期間は2024年度（2024年4月～2025年3月）であるため、本誌上の行政区・自治体名は旧表記としています。

ベトナム中部発展型農村総合開発

地域の魅力と資源で産業を育てる

期 間 2019年4月～2026年10月（予定）

事業地 クアンナム省9郡

対 象 クアンナム省9郡の住民
約304,400人（80,850世帯）

背 景 目的 ベトナムの農村人口における貧困層の約9割が住む山岳地域には、国の発展や変化から取り残された状況にある少数民族が暮らしています。2001年からクアンナム省ナムザン郡で少数民族のカトゥー族と進めてきた地域開発の取り組みを、クアンナム省全域にひろげ、様々な少数民族が主体的かつ持続的に産業育成と地域振興を図ることができるようにします。

※当プロジェクトは2022年2月よりJICA 草の根技術協力事業（事業名「ベトナム社会主義共和国クアンナム省山岳少数民族地域における地域資源を活用した持続的な農村産業促進のための基盤構築事業」）として実施

現地からの声



ムオン族の人々

私たちが大昔から大切にしてきた伝統文化や慣習を伝えることができる観光開発は、すばらしいと思います。自分たちが通っている道を、観光客が自転車で楽しむようになるなんて！FIDRのアイデアには驚きました。



▶地域住民主体の観光開発の進展と地場産業の育成

ナムザン郡での観光開発の先行事例から学んだ省内8か所での観光開発が軌道に乗り始め、観光客の受け入れが始まりました。また、人々の往来が盛んになったことにより、各村では地域資源を活用した特産品づくりが進み始めました。

▶観光まちづくりの学び合いの進展

一般社団法人地域問題研究所（愛知県名古屋市）と連携し、愛知県東栄町とナムザン郡による国を超えた「観光まちづくり」を学び合う交流プログラムを実施しました。11月には、ナムザン郡の観光関係者が東栄町を訪問し、観光資源をどのように活かし、その魅力をどうPRするかを学びました。2月には、東栄町観光まちづくり協会の関係者がクアンナム省を訪問、ナムザン郡を中心に少数民族が暮らす村を巡り、カトゥー族の生活を体験しました。相互の現地を訪問しての対話や視察を通じ、共通点や課題など多くの気づきを得たことで、それぞれの地域の観光まちづくりのさらなる発展を目指します。

▶国際会議などでの発表、インターンや研修の受け入れ

このプロジェクトについて、国際会議などで発表しました（ホーチミン、ハノイ）。また、日本の企業、自治体、大学、青年海外協力隊などからのインターンや研修を多く受け入れました。

▶ASEAN 観光賞の受賞

東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国による観光分野の最大級の公式会議である、ASEAN ツーリズムフォーラム（2025年1月開催）において、このプロジェクトが後押ししてきた地域住民による観光開発（Community-Based Tourism: CBT）の実践がASEANのCBTモデルの一つとして選ばれました。

ベトナム中部生活改善と子どもの栄養改善

最貧地域のお母さんと子どもに健康を

期 間 2019年4月～2025年3月

事業地 コントゥム省全域（9郡1市）

対 象 コントゥム省全域の5歳未満児
（約55,000人）とその保護者世帯

背 景 目的 ベトナム中部高原地域は、地理的な条件から孤立しがちで、他の地域に比べて発展が遅れています。特にコントゥム省は、子どもの栄養不良率が国内で最も高く、出産時の母親の死亡率も極めて高いとされています。同省の一部の地域で2012年から子どもの栄養状態の改善に取り組んできた実績をもとに、コントゥム省全域で活動を展開します。

▶家庭における衛生改善

子どもの栄養を改善するためには、家庭における衛生環境が大きく影響します。現地で高い支持を得ているマザーズ・スペース（家庭に設置するトイレ・シャワー・洗濯場の複合衛生施設）をトゥモロン郡、シャータイ郡、ダクト郡の計335世帯に設置しました。水回りの環境改善により、衛生面のみならず栄養状態にも大きな効果が現れたことが確認できました。



マザーズ・スペースで洗濯をするお母さん

▶子どもの栄養改善のための啓発活動

保護者を対象とした栄養指導を効果的に実施するため、現地で普及している炊飯器を積んだ専用車両で山岳地域の集落を巡回するベトナム初の活動を継続しました。より多くの住民が、意欲的に調理実習に参加するようになりました。

ソンラ省持続的コーヒー生産のためのコミュニティ開発

一杯のコーヒーから農家の暮らしを変える

期 間 2021年4月～2027年3月（予定）

事業地 ソンラ省ソンラ市2社*、トゥアンチャウ郡2社、マイソン郡2社
*社:ベトナム最小の行政単位。日本の町、村に相当する。

対 象 コーヒー生産農家約4,300世帯

背 景 目的 ベトナムのコーヒー生産量は世界2位を誇ります。ソンラ省はその主要産地の1つであり、少数民族が多く暮らす、ベトナムで最も貧しい5省のうちの1つです。イオン（株）から委託を受けた調査の結果、収入、農業技術、住民の生活、地域支援に関する課題が明らかになりました。持続的なコーヒー生産を通して、安定した生活とコミュニティ支援体制を構築します。

▶農家への研修

農家のグループリーダーに対する研修を行いました。また、土壌・苗木管理などの有機栽培の方法やコーヒー生産の国際認証基準に関する研修を引き続き実施しました。

▶生計向上や生活改善のための研修実施

地域の農業局や婦人会のメンバーと協力して「生活・生計向上のためのスキル」に関する実践研修を実施するとともに、書きながら学べるテキストブックを作成して約4,000世帯のコーヒー生産農家に配布しました。



研修に参加する女性たち

※当プロジェクトはイオン（株）の委託事業として実施

ダナン市における女性・子ども支援

実践的なスキルで安定した収入を

共同実施団体：ダナン市慈善・チャイルドライツ保護協会

期 間 2022年4月～2027年3月（予定）

事業地 ダナン市

対 象 ダナン市内の貧困世帯の女性および若年者約100人、現地協働団体の職員

背 景 目的 国際観光都市としての認知度が向上しているベトナム中部最大の都市であるダナン市では、急速な発展が進む一方で、住民の間に社会・経済的格差が生じています。現地共同実施団体とともに、生活困難世帯を対象に安定した生活のための知識およびスキル向上の機会を創出し、コミュニティ支援体制を構築します。

▶研修の実施

前年度に引き続き縫製、包装、農産物加工、工芸品製作の訓練を実施し、計89名が受講、内84名が研修を完了しました。極めて不安定な収入しか得られなかった人々が、着実な収入を得られるようになっています。



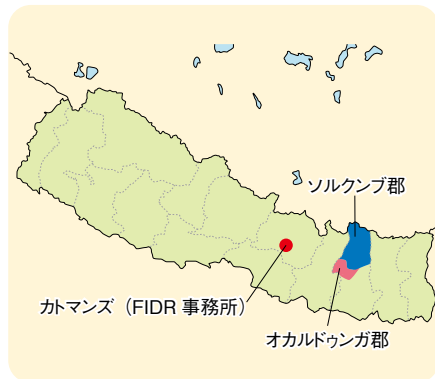
縫製実習の様子

▶年間評価の実施

3月に当プロジェクトの年間評価を実施しました。ダナン市の行政官などから、貧困層を直接の対象者とした職業訓練研修はこれまでに例がない活動であると、非常に高い評価を受けました。



ネパール



ネパール地域総合開発

地域を元気に、子どもを健康に

期 間	2020年12月～2026年8月（予定）
事業地	ソルクンブ郡ネチャサリヤン村、オカルドゥンガ郡チサンクガディ村
対 象	ソルクンブ郡ネチャサリヤン村及びオカルドゥンガ郡チサンクガディ村の住民 約31,000人（約6,900世帯）

背 景 アジアで発展が遅れている国の1つであるネパール。インフラが十分に整備されていない山岳地域では、多くの人々が制約のある生活を送らざるを得ず、限られた土地での農業が主たる産業ですが、観光業や製造業、小売業で経済が伸びつつある都市部との地域格差は広がるばかりです。そのため、出稼ぎにでる若年層が極めて多く、地域の生産力とコミュニティの活力は低下の一途を避けられずにいます。住民と行政の協働により農業生産性の向上および収入の安定を図り、子どもの健康増進を目指します。

※当プロジェクトは、外務省の令和5年度日本NGO連携無償資金協力を受け実施

現地からの声

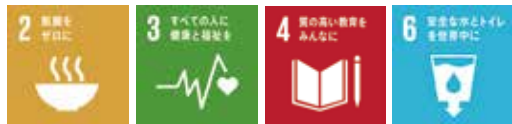


ソルクンブ郡ネチャサリヤン村 ジャスマヤ・ライさん

この村では、小さな川から汲んでくる水が、集落の人たち全員の頼みの綱でした。でも、その川の流れはとても少なく、みんな水瓶を満たすのにとても時間がかかったんです。私は一人暮らしなので、病気になった時などは、水を汲みにいくこともできず本当に辛かったですよ。飲料水タンクと私の家の水道の蛇口ができて、本当にうれしいです。これまで水を汲みに行くために費やした時間を、家事や庭の畑仕事に十分に使うことができます。



栽培した野菜を誇らしげに見せてくれた農家の方



▶衛生行動の改善による健康増進

プロジェクト開始以来4基目となる飲料水タンクを1基増設し、地域住民が常時衛生的な水にアクセスできるようになりました。また、保健ポスト職員、保健ボランティア、母親保健グループを対象とした非感染性疾患およびメンタルヘルスに関する研修を実施しました。

▶農業の生産性及び生産量の向上

雨がほとんど降らない乾季の農業生産を可能にするため、雨季に水を貯めておく農業用ため池を102か所に造営しました。また、乾季の寒さから農作物を守るトンネル栽培の設備を594か所に設けました。これらの設備により季節を問わず農作物を育てられるようになったことから、野菜の収穫が増え、販売による収入も向上し、住民の大きな自信につながっています。また、地域住民を対象とした農業技術の研修や他郡へのスタディツアーを行いました。

▶子どもの学習環境の改善

対象地域内の13校で校舎の屋根の修繕、学校外周を囲うフェンスの設置、教材・教具を配備しました。また、生徒を対象とした歯磨き研修、18校の小学校教員46名を対象とした「音楽科目」と「子ども中心の教育アプローチ」に関する、6日間の教員研修も実施しました。



学校の屋根の葺き替えを実施

▶中間評価の実施

行政を含むプロジェクトの関係者とこれまでの成果を確認し、今後の方向性について協議しました。

緊急援助

令和6年能登半島地震緊急援助

現地の声を聞き、支援が届きにくいところへ

期 間	2024年1月～2026年3月（予定）	2024年1月1日に発生した石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震では多数の人命が失われ、産業基盤が喪失、さらに9月の豪雨により奥能登では再び大きな被害が生じました。度重なる災害からの回復と長期的視野での復興のため、FIDRは行政と連携して支援に取り組んでいます。
事業地	石川県珠洲市、輪島市	
対 象	珠洲市、輪島市を中心とする被災地住民	

支援内容

- ①給食用に延べ14,000食の弁当を小中学校11校へ提供（珠洲市、2024年2月下旬～4月中旬）
- ②約2,000名分の寝具7点セットを仮設住宅の入居者へ提供（輪島市、2024年3月下旬～5月下旬）
- ③学校用マイクロバス2台の提供（珠洲市、2024年10月）④部活動ユニフォーム・用具の提供（珠洲市、2024年10月～）



珠洲市に寄贈したマイクロバス。ラッピングは地元中学生がデザインしました

ベトナム北部台風緊急援助

身近な存在だからこそ、できる支援を

期 間	2024年7月～2025年3月
事業地	ベトナム ソンラ省
対 象	①サオマイ・トンコ保育園の職員（26名）および保育児童310人とその世帯 ②少数民族高等学校生徒およびその関係者 約1,000人

支援内容

- ①台風2号への対応：絵本・図鑑などの教材、浄水器、給食の調理器具や冷蔵庫などの備品を提供（サオマイ・トンコ保育園）石鹸やタオルなどの衛生用品、保温水筒を配付（園児の世帯）
- ②台風11号への対応：フリース素材の防寒着を提供（寄宿制高等学校の生徒、職員）



さっそく防寒着を着用する生徒たち

台湾花蓮地震緊急援助

いま必要なものを、本当に必要としている人々へ

共催団体：
ワールド・ビジョン・台湾

期 間	2024年4月～2025年9月
事業地	台湾花蓮県
対 象	震災の影響を受けた人々

2024年4月3日、台湾東方の沖合を震源とするマグニチュード7を超える強い地震が発生しました。震源に近かった花蓮県において、ワールド・ビジョン・台湾と共同で、低所得世帯を対象に、住居・家具等の回復支援のための義援金支給、子どもたちを対象にした心理的ケアのための支援センターの設置並びに心理的トラウマ回復プログラムの実施支援、新たな生計手段を獲得するためのトレーニングの開催支援を行いました。



ソーシャルワーカーによる本の読み聞かせ

共催事業

ベトナム国際医療技術協力

日本の医療技術をベトナムへ

共催団体：公益財団法人国際医療技術財団

期 間	2024年6月～2024年11月
事業地	日本、ベトナム
対 象	ベトナム政府保健省、リハビリテーション関係医療従事者、歯科技工技術者
目 的	日本の理学療法及び歯科技工がベトナムのリハビリテーション及び歯科医療の向上、また両分野の人材開発に寄与することを目指します。

6月のベトナムでの学術大会への日本人専門家の出席、現地での協議や調査を経て、8月に5名のベトナムにおけるリハビリテーション及び理学療法の臨床及び教育従事者を日本へ招聘し、研修および協議を行いました。



11月には、ベトナム国家大学が主催する世界歯科展示学会にて、（公社）日本歯科技工士会の森野会長が講演を行いました。また、（公社）日本理学療法士協会の斉藤会長とともに、ハノイ医科大学およびハイズオン医療技術大学と、日本流理学療法を普及させるための覚書を締結しました。

広報啓発

当年度は、コロナ禍以前の形態で広報活動を行えるようになったことから、特に対面で、よりリアルに支援地を感じていただくことに注力しました。また、ボランティアや支援者の方々の参加型で、FIDRの働きを知る機会を創出しました。さらに、機関紙やホームページでの情報発信も強化しました。

みる、きく、体験する、交流する



6月、イオンレイクタウン（埼玉県越谷市）で協力企業とともにFIDRがベトナムで行うコーヒー農家支援の取り組み紹介と同地産コーヒーの試飲会を行い、1,000人以上にご来場いただきました。



11月、ベトナムから来日した少数民族の伝統文化体験イベントを行いました。来場者は織物製作、かご作り、ホウキ作りなどを体験したほか、少数民族と一緒に伝統舞踊も！FIDR現地スタッフと少数民族による活動報告も行いました。

日本最大級の国際協力イベントである「グローバルフェスタJAPAN 2024」や「JICA Tokyo World Music Festival」に出展し、活動広報を行いました。



ボランティア有志が企画運営するイベント「FIDRカフェ」を2回開催しました。ボランティアメンバーを中心とした参加者が、国際協力について議論し交流を深めました。



法人賛助会員企業においては、11件の活動報告会を実施しました。一部企業では、カンボジア・ベトナムの事業地を視察した社員の方々が現地事情や支援の成果を発表したり、ベトナム少数民族製品を紹介販売する機会を設けたりしたところ、支援活動への深い共感を得ることができました。

<報告会>●ニッシントーア・岩尾株式会社（10月）●ヤマザキ製パン従業員組合（8月～1月）●ミヨシ油脂株式会社（11月）●月島食品工業株式会社（2月）



ミヨシ油脂(株)における活動報告会

学ぶ

開発教育の実施・外部講師として登壇

高校生・大学生への開発教育を2件実施したほか、オンライン講演も行いました。

<開発教育実施校>

浦和第一女子高等学校、新潟県立大学



FIDR職員の話聞く新潟県立大学の皆さん

読む

ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイトやFacebookなどのSNSを通じた最新情報の発信に努めました。英語版ウェブサイトを一刷新し、11月に公開しました。パソコンでもスマートフォンでも閲覧しやすくなりました。

広報誌などでの活動内容のPR

機関紙FIDR NEWSをより効果的なコミュニケーションツールとすべく、支援地の人々の声や支援者の途上国支援への思いなどを多数掲載したところ、賛助会員をはじめとする支援者の方々からの反響が高まりました。

- FIDR NEWS 121～123号の発行（年3回：4月、8月、11月 各4,300部）
- 年次報告2023の発行（計1回：8月 5,000部）
- メールニュースの配信（計23回）
- Monthly FIDRの配信（計12回）

会計報告

貸借対照表（要旨）

令和7年3月31日現在

（単位：千円）

I. 資産の部

1 流動資産	44,889
現金預金	34,447
未収金	7,014
前払金	3,341
立替金	87
2 固定資産	435,620
基本財産	303,000
特定資産	122,637
その他固定資産	9,983
資産合計	480,509

II. 負債の部

1 流動負債	6,608
未払金	1,270
前受金	509
預り金	1,195
賞与引当金	3,634
2 固定負債	39,337
退職給付引当金	39,337
負債合計	45,945

III. 正味財産の部

1 指定正味財産	386,300
2 一般正味財産	48,264
正味財産合計	434,564
負債及び正味財産合計	480,509

正味財産増減計算書（要旨）

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

（単位：千円）

I. 一般正味財産の部

1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
①受取会費	144,282
②JICA受託等事業収益	27,627
③受取補助金等	77,770
④受取寄付金	104,514
⑤雑収益他	4,624
経常収益計	358,817
(2) 経常費用	
①事業費	325,326
国際協力援助費	259,659
緊急援助費	49,333
広報啓発費	16,334
②管理費	31,246
経常費用計	356,572
当期経常増減額	2,245
2. 経常外増減の部	
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	2,245
一般正味財産期首残高	46,019
一般正味財産期末残高	48,264

II. 指定正味財産増減の部

①受取補助金等	0
②受取寄付金	30,538
③一般正味財産への振替額	△ 141,840
④補助金等返還金	0
当期指定正味財産増減額	△ 111,302
指定正味財産期首残高	497,602
指定正味財産期末残高	386,300
III. 正味財産期末残高	434,564



みなさまとともに

ミヨシ油脂株式会社

ベトナム少数民族の織物を活用したオリジナル「社員証ケース」を、FIDRのプロジェクト地の少数民族織物組合にご発注くださいました。当年度中に、全社員の社員証ケースがこの織物ケースに切り替わりました。



株式会社不二家

台湾花蓮地震の緊急援助に対し、台湾産パイナップル果汁を使用した期間限定商品「カントリーマアムチョコまみれザ・ワールド（アジア編）ミドルパック」の売上の一部をご寄付くださいました。



ヤマザキ製パン従業員組合

年間を通し、全国各支部でチャリティー活動を行い、寄せられた募金の一部をFIDRにご寄付くださっています。当年度は開発途上国における支援活動のために役立てさせていただきました。本社支部で開催された歳末チャリティバザーにはFIDRも出店し、ベトナム少数民族の手工芸品を販売させていただきました。

ニッシントーア・岩尾株式会社

カンボジアのコンポンレーン郡農村開発プロジェクトの一部を、共同事業として実施しています。2年目となった当年度も、社員の方々が事業地に赴かれ、事業地産食材を使ったふりかけの開発、調理方法の確立、宣伝・販売を、現地スタッフと共に進めました。



山崎製パン株式会社、株式会社不二家 株式会社ヴィ・ド・フランス

山崎製パン(株)及び同社グループは、デイリーヤマザキ、Yショップ、不二家洋菓子店、ヴィ・ド・フランス、サティワンアイスクリーム等、全国約3,000店舗に募金箱を設置し、当年度も継続してヤマザキ「ラブ・ローフ」募金活動を推進してくださいました。

株式会社スーパーヤマザキ

毎年、お中元やお歳暮ギフト商品の売り上げの一部をご寄付くださっています。当年度は能登半島地震緊急援助のためにご寄付いただきました。

法人賛助会員9社による海外事業視察

9月、法人賛助会員9社より17名の社員の方々がカンボジア・ベトナムの事業地を視察され、日頃のご支援の成果をご確認くださいました。各視察地では、賛助会費による支援活動の実際を視察されたほか、現地の方々やFIDRの現地スタッフとも交流を深めました。

<ご視察企業>

日清製粉(株)、ミヨシ油脂(株)、月島食品工業(株)、オリエンタル酵母工業(株)、ソントン食品(株)、ニッシントーア・岩尾(株)、ダイセイエブリー二十四(株)、(株)不二家、山崎製パン(株)



令和6年能登半島地震緊急援助へのご協力

●緊急援助募金●

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災地における支援活動のために、当年度も、4法人・41個人より緊急援助募金をお寄せいただきました。また、緊急援助活動に際しても、各社のご協力をいただきました（活動詳細については、P 9をご覧ください）。

●お弁当の支援●

2024年2月下旬から4月中旬まで2カ月間、珠洲市の小中学校に給食代替のお弁当を提供した際には、お弁当の製造を株式会社サンデリカが、配送を山崎製パン株式会社が担ってくださいました。

書き損じはがき収集活動にご協力いただきました

ホクト商事株式会社/三井不動産ファシリティーズ株式会社/山崎製パン株式会社/その他多くの個人の方々（敬称略・50音順）



●寝具セットの支援●

株式会社ヨシヅヤより、寝具セットの調達から配送までのご協力をいただきました。

FIDRは、開発途上国の子どもたちや自然災害に見舞われた方々のために、約300の法人賛助会員や2,400人以上の個人賛助会員をはじめ、ご寄付やボランティア等さまざまな形でご協力くださる皆様とともに活動しています。2024年度の皆様とのパートナーシップについて、一部をご紹介します。（敬称略）

玉の肌株式会社

FIDRの支援終了後も病院給食提供を継続しているカンボジア国立小児病院の給食棟へのフードプロセッサー配備をご支援くださいました。作業効率が各段に上がり、調理スタッフの業務改善につながりました。また、ベトナム北部台風緊急援助においては、被災世帯への支援にもご協力いただきました。



日本フルハーフ株式会社

厚木工場内に1000本以上植栽されているばらを一般公開する「ばら鑑賞会」において、FIDRの活動支援のための募金活動を行ってくださいました。来場者と社員の方々による募金をお寄せいただきました。



ボランティアのみなさん

郵送物の封入作業や発送、広報記事の翻訳、ニュースレターのイラスト作成などにご協力いただきました。また、有志メンバーが交流型イベント「FIDR カフェ」を2回企画・開催し、さまざまな立場の参加者どうして国際協力について活発な意見交換が行われ、交流が深まりました。



法人賛助会費の増口

世界的な物価高や人件費の高騰、急速な円安がFIDRの事業運営に大きな影響を及ぼす中で、法人賛助会員の皆様に会費増口のご協力をお願いしましたところ、下記の皆様がお応えくださいました。さらなるご支援を賜りますことに心よりお礼を申し上げます。

山崎製パン株式会社

日清製粉株式会社

オリエンタル酵母工業株式会社

月島食品工業株式会社

ミヨシ油脂株式会社

株式会社ヤマザキ物流

アオイ産業株式会社

飯島興産株式会社

伊藤忠食糧株式会社

株式会社ヴィ・ド・フランス

株式会社サンデリカ

千葉製粉株式会社

株式会社東ハト

株式会社バオホッタ

株式会社不二家

株式会社三井住友銀行

三菱商事株式会社

ヤマザキビスケット株式会社

株式会社サンロジスティクス

ダイセイエブリー二十四株式会社

ダイセイホールディングス株式会社

日東富士製粉株式会社

株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル

株式会社SBI 新生銀行

熊本製粉株式会社

株式会社千葉銀行

農林中央金庫

株式会社濱田建設

明和産業株式会社

株式会社ヤマザキ

株式会社ヤマザキエンジニアリング

株式会社カナオカ

株式会社サンミックス

正栄食品工業株式会社

昭和産業株式会社

信和産業株式会社

株式会社スリーエスフーズ

ソントン食品株式会社

株式会社田中食品興業所

中国陸運株式会社

東幸通商株式会社

トーヨー加工株式会社

トーワ物産株式会社

鳥越製粉株式会社

中島工業株式会社

株式会社ニッポン

株式会社博報堂

松谷化学工業株式会社

ヤマエ工業株式会社

レオン自動機株式会社

芥川製菓株式会社

株式会社 ADEKA

アベニコーボレーション株式会社

株式会社イイツカ

伊那食品工業株式会社

イフジ産業株式会社

株式会社上野忠

ウェルネオシュガー株式会社

株式会社江戸清

MP 五協フード & ケミカル株式会社

株式会社 OYC フーズネット

岡山鶏卵株式会社

奥本製粉株式会社

株式会社加藤美峰園本舗

株式会社カナカ

株式会社神田製作所

関東混合機工業株式会社

協和冷熱工業株式会社

旭東化学産業株式会社

株式会社ギンボーバック

株式会社クオラス

株式会社クレオ

株式会社クレオインターナショナル

ケミ・コム・ジャパン株式会社

ケンコーマヨネーズ株式会社

栄香料株式会社

サンアイバック株式会社

サンエス建設株式会社

正田醤油株式会社

白熊商事株式会社

双日株式会社

大東カカオ株式会社

株式会社大丸松坂屋百貨店

中越酵母工業株式会社

中日物産株式会社

株式会社テラオカ

東京フード株式会社

吉田電気工事株式会社

トーフ保険センター株式会社

友栄食品工業株式会社

長岡香料株式会社

中日本商事株式会社

株式会社ナカノフードー建設

南開物流株式会社

株式会社新潟ケンペイ

日油株式会社

日清オイリオグループ株式会社

日本フルハーフ株式会社

日本タンクターミナル株式会社

株式会社ネオテック

不二製油株式会社

株式会社婦人友友社

古林紙工株式会社

株式会社マスタ運輸

ケンコーマヨネーズ株式会社

丸木商事株式会社

有限会社ミタカ製袋

三井物産株式会社

三菱商事プラスチック株式会社

三菱商事ライフサイエンス株式会社

株式会社三菱 UFJ 銀行

三橋産業株式会社

明治安田生命保険相互会社

明治安田損害保険株式会社

明治安田ライフプランセンター株式会社

雪印メグミルク株式会社

豊紙器販売株式会社

吉田電気工事株式会社

ライニングコンテナ株式会社

理研ビタミン株式会社

心をあわせ、未来をひらく

FIDRは、開発途上国の子どもたちの支援と緊急援助を行う、国際協力NGOです。

FIDRの2つのミッション

FIDRは開発途上国の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくります。

FIDRは日本国内の多くの個人、企業、団体の皆様と一緒に、国際協力を推進します。

ミッションを実行するための3つの事業

国際協力援助事業

開発途上国の人々が貧困から脱して、地域が自立的に発展していくことができるように、さまざまな分野で地域に根差した活動を行っています。

緊急援助事業

日本を含むアジアの国々で自然災害に見舞われた人々への支援を行っています。

広報啓発事業

多くの方々との協力の輪を広げるための情報発信やコミュニケーションを行っています。

FIDRとは

公益財団法人国際開発救援財団（英語名Foundation for International Development/Relief）＝「FIDR（ファイダー）」は、1990年に日本で誕生した国際協力NGOです。

FIDRは2020年6月に国連経済社会理事会の特殊諮問資格を取得し、国連NGOの一員となりました。

●団体概要

団 体 名：公益財団法人 国際開発救援財団

英 語 表 記：Foundation for International Development/Relief（FIDR）

代 表 者：飯島 延浩

設 立 日：1990年4月26日

行 政 庁：内閣府

基 本 財 産：3億300万円

事 業 目 的：開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施し、開発途上国の自立的発展及び福祉の増進に寄与する
海外並びに日本国内における自然災害の被災者への緊急援助を実施し、社会復帰を促進する

賛 助 会 員：法人賛助会員 313 法人

個人賛助会員 2,435 名

事務所設置国：日本、カンボジア、ベトナム、ネパール

※ 2025年7月末現在

●役員・評議員一覧

理 事 長	飯島 延浩	山崎製パン株式会社代表取締役社長
専務理事	江川 信彦	株式会社サンデリカ監査役
常務理事	岡田 逸朗	山崎製パン株式会社顧問
理 事	安西 愈	弁護士
理 事	飯島 茂彰	ヤマザキビスケット株式会社代表取締役社長
理 事	石井 智浩	医師
理 事	石川紳一郎	ソントン食品株式会社代表取締役社長
理 事	今西 浩明	公益財団法人国際開発救援財団事務局長
理 事	片山 信彦	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン理事長
理 事	管野 清幸	月島食品工業株式会社代表取締役社長
理 事	小西恵一郎	公益財団法人国際医療技術財団代表理事・理事長
理 事	長谷川 冴子	一般社団法人全日本合唱連盟理事長
理 事	日暮 道生	栄香料株式会社取締役相談役
理 事	深沢 亮子	ピアニスト
理 事	湊 晶子	東京基督教大学名誉教授
監 事	秋山 豊正	税理士
監 事	三木 逸郎	ミヨシ油脂株式会社代表取締役社長兼 CEO

評 議 員	飯島 幹雄	山崎製パン株式会社代表取締役副社長
評 議 員	岡松 孝男	昭和大学名誉教授
評 議 員	神長 善次	株式会社不二家取締役
評 議 員	齋藤 昌男	弁護士
評 議 員	妹尾 正毅	一般社団法人日本倶楽部理事
評 議 員	峯野 龍弘	ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会元老牧師
評 議 員	村上 宣道	一般財団法人太平洋放送協会名誉会長
評 議 員	山田 貴夫	日清製粉株式会社取締役社長
評 議 員	吉田 修康	山崎製パン株式会社常務取締役

※ 2025年7月現在



心をあわせ、未来をひらく

ご支援のお願い

賛助会員へのご入会 ご寄付（クレジットカード）



当財団への賛助会費・ご寄付は税控除の対象になります

情報発信中！

Webサイト、Facebook、X、Instagram にて
最新情報を発信しています



Web

2025 年 8 月発行

公益財団法人 国際開発救援財団（FIDR）

ファイダー

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 3F

TEL : 03-5282-5211

FAX : 03-3294-2525

E-mail : info@fidr.or.jp

URL : <https://www.fidr.or.jp>